

「おかげさま・ありがとう」

今年も、12月4日から10日までの1週間は、「人権週間」、人が生まれながらにもっている権利についてしっかりと考える期間になっています。「人権週間」は世界共通で、今年で、69回目になります。「人権週間」を簡単に言えば、皆さん一人ひとりが、人として大切にされているかを、いつもよりもっと気にして過ごす1週間ということになります。人は、生まれながらにだれもが自由で平等で、一人ひとり、全ての人が大切な人です。だから、誰が偉くて、誰が偉くないとか、何かができるから偉くて、何かができないから偉くないなどと、人を差別するのは、許されないことです。学校では、差別のことを「いじめ」と言います。いじめに勝つには、皆さんのたくさんの「思いやりの気持ち」を集めることが大切だと思っています。「思いやりの気持ち」これは、人間にしかない温かくて素晴らしいものです。

相田みつを氏の言葉に、「いいことはおかげさま、わるいことは身から出たさび」という言葉があります。ここまで謙虚になるのはたいへんですが、一歩でも近づきたいものです。また、江戸時代に日本を訪れた外国人の多くが、国本人の礼儀正しさや誠実で親切であること、誰もが学ぶ意欲をもって教養があることなどを本国への手紙や書物にして、驚きや敬意を表していたと聞いたことがあります。これらの内容は、「江戸しぐさ」という本にも紹介されています。



例えば、

- ① 人に、感謝の気持ちを持ったら、素直に「ありがとう」（ありがとうございます）といい、相手に感謝の気持ちを伝えましょう。
- ② 相手に失礼なことをしてしまったときなど、素直に「すみません」といましょう。
- ③ 相手から言われたことに、「はい、はい」と返事を二度繰り返すのは、相手を侮辱した失礼なしぐさですので使わないように気をつけなければいけません。
- ④ 「刺し言葉」とは、「逆なで」、「チクリチクリの嫌み」、「当てこすり」などの言葉を言います。これらの言葉は相手の感情を悪化させるため使わないようにしましょう。などです。

平成29年も残り1ヶ月となりました。お家でも学校でも、そして道を歩いている時も、やはり笑顔で気持ちよくあいさつすることから心がけたいものです。

校長 土井 安博